

経営比較分析表（令和4年度決算）

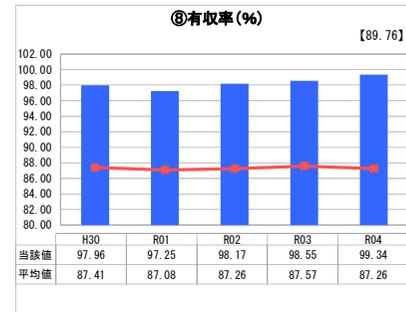
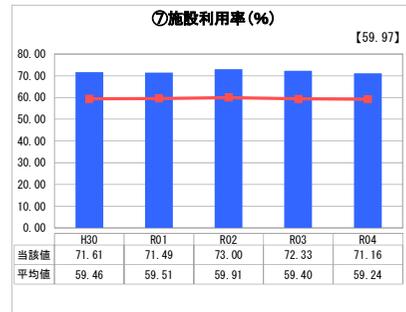
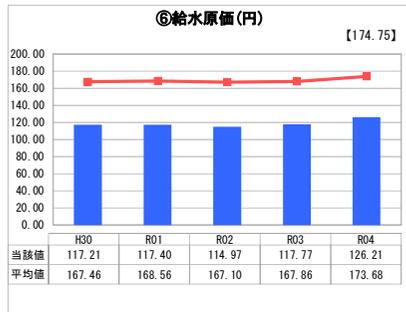
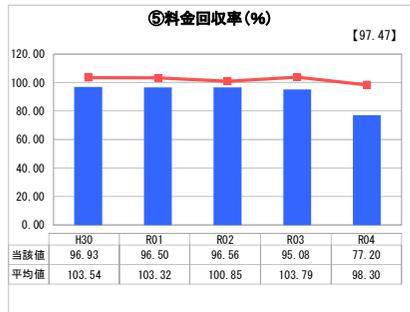
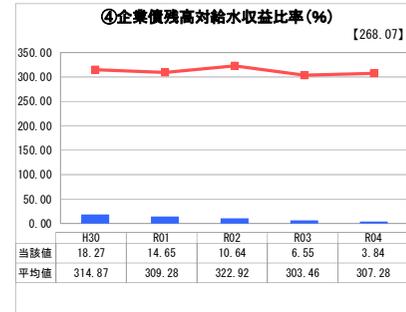
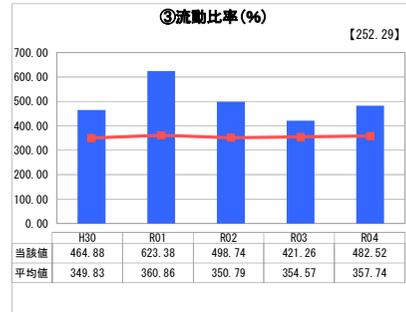
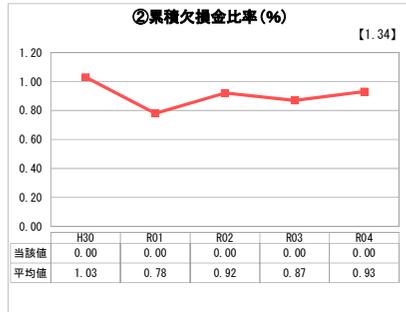
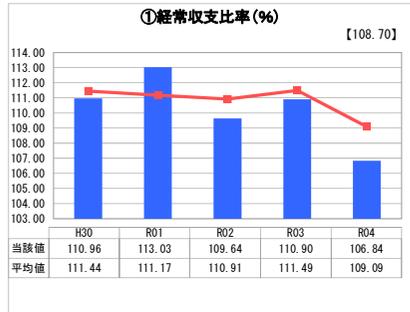
埼玉県 和光市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	97.58	100.00	1,830	

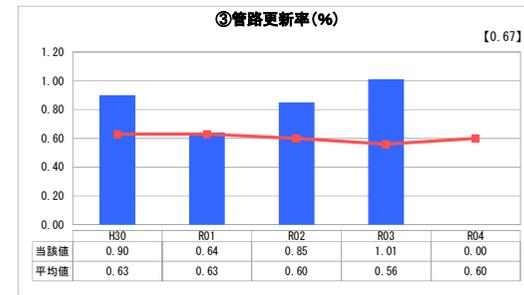
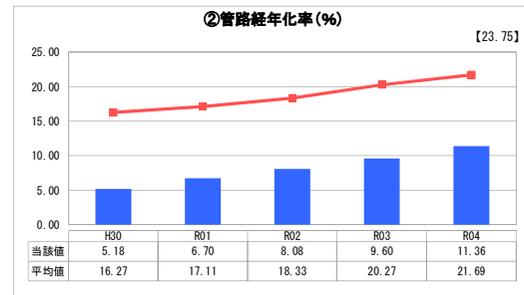
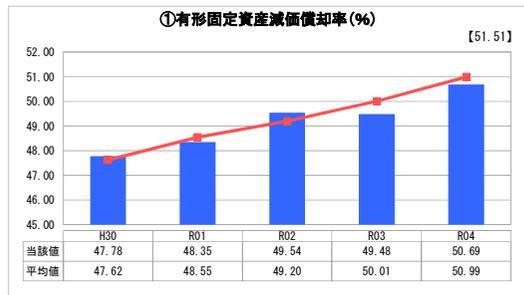
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
83,962	11.04	7,605.25
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
83,597	10.40	8,038.17

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①類似団体及び全国平均値を下回る水準であるが、100%を超えていることから、収益で費用を賄えており、当市の経営状況は健全であるといえる。ただし、全体的には収益が減少してきているため少しずつ厳しい見通しになっている。

②0.00%であり、欠損金は発生していない。当市の経営状況は健全であるといえる。

③100%を大幅に超え、加えて令和4年度は上昇に転じたことから、短期債務に対する十分な支払能力を有しているといえる。ただし、資金の効率的運用の観点からは、流動比率は単純に高ければ良いというわけではなく、適正水準の確保が重要となる。

④類似団体及び全国平均値を大幅に下回っており、経営に及ぼす影響は少ないといえる。しかし、世代間負担の公平性の観点からは、単純に低ければ良いというわけではないので、バランスの良い資金計画を検討する必要がある。

⑤100%を下回っているが、新型コロナウイルス感染症対策に係る水道料金軽減事業（令和4年8月から11月請求分基本料金の減免）を行ったことによるものであると考えられる。しかし、水道事業の持続と基盤強化を見据えた適正な料金水準を検討する必要がある。

⑥類似団体及び全国平均値を下回り、他団体に比べて有収水量1m³あたりの費用が低いものといえる。

⑦類似団体及び全国平均値を上回り、効率的に施設を利用してきている状況である。

⑧類似団体及び全国平均値を上回り、高水準にあるといえる。この水準を維持していくことが重要である。

2. 老朽化の状況について

①類似団体及び全国平均値と同程度の水準。ただし、直近の指標は上昇傾向にあり、資産の老朽化が進みつつある状況である。アセットマネジメントによる長期の更新需要の把握と、財源確保策を検討する必要がある。

②類似団体及び全国平均値を大幅に下回っており、現状では管路の老朽化が進んでいないといえる。しかし、増加傾向にあることから、注視していく必要がある。

③類似団体及び全国平均値を上回っている。しかし、当該数値の更新ベースだと、すべての管路を更新するには100年以上かかることになり、将来的な管路の老朽化に対応するのは難しい状況である。また、令和5年度3月31日時点では数値が確定していなかったため当該値が0.00%となっているが、確定後の正確な数値は0.55%である。

全体総括

当市は現状において健全な経営状況を維持しているといえる。しかし、経常収支比率や料金回収率が減少傾向を示していることから、経営状況の見直しは厳しいものといえる。

さらに、有形固定資産減価償却率及び管路経年化率から施設や設備などの資産の経年化・老朽化が進行していることがわかるため、今後はそれらに対する更新投資の増加が必要になると考えられる。

このことから、令和元年度に策定した水道事業経営戦略について、水道料金の改定を見据えた検証を行う、経営の健全化や経営基盤の強化を図っていく。

経営比較分析表（令和4年度決算）

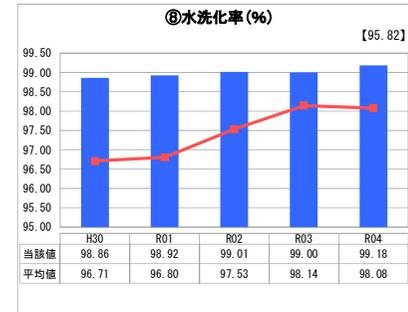
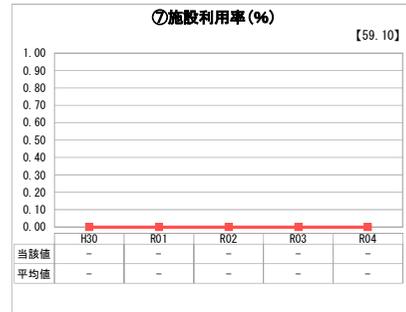
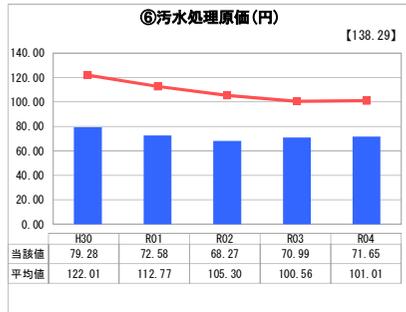
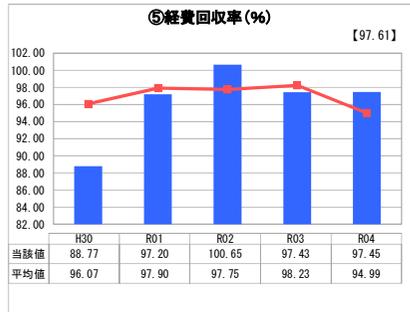
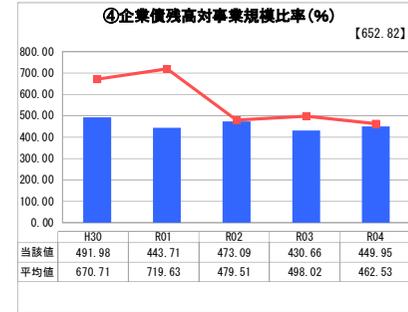
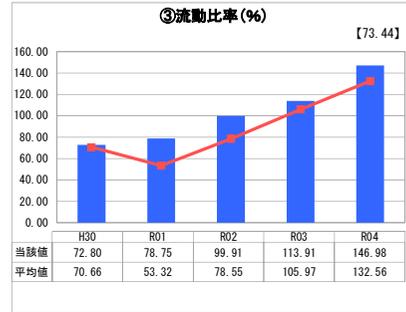
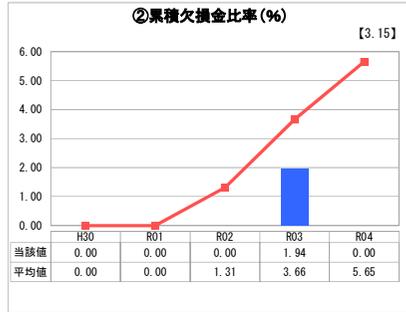
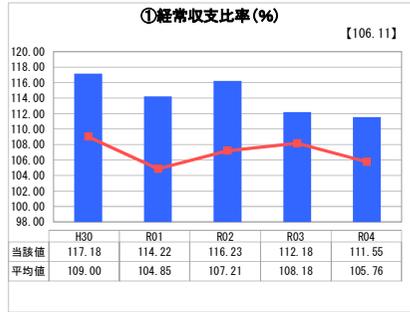
埼玉県 和光市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ba	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり原価料金(円)
-	80.60	97.22	100.23	1,262

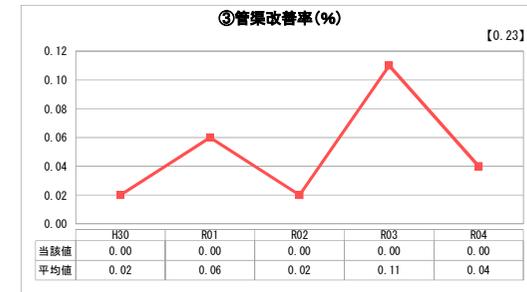
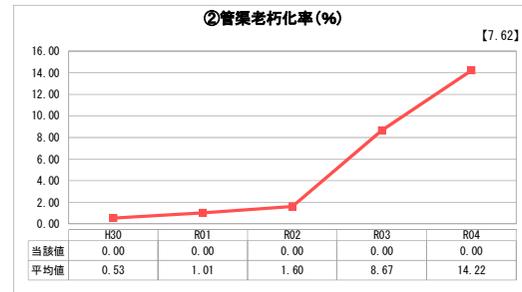
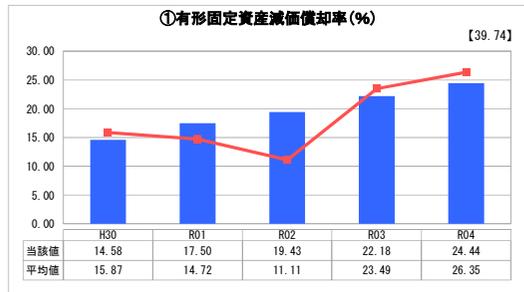
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
83,962	11.04	7,605.25
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
81,279	7.70	10,555.71

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は111.55%と黒字で、類似団体の平均値を上回っている。また、② 累積欠損金比率については、0.00%となった。④ 企業債残高対事業規模比率については前年度より19.29ポイント増加した。令和4年度において、起債を財源とした大規模工事を実施した経緯を鑑みると数値の推移は適正な数値と言える。これらのことから、本市の経営状況はほぼ健全であるといえる。

③ 流動比率は146.98%で前年に比べて改善傾向にあり類似団体の平均値を上回っており、100%を上回っている。⑤ 経費回収率については、97.45%で、類似団体の平均値を上回り、増加となった。引き続き収入の確保と支出の適正化に努め、健全な事業運営を進めていく。

⑥ 汚水処理原価は71.65円と、昨年度よりは増額したものの類似団体の平均値を大幅に下回る額となっている。経営状況は健全であると判断している。

⑧ 水洗化率については、令和3年度決算の時点で99.00%であったが、令和4年度決算では人口及び処理区域内人口の増加に伴い99.18%となった。

本市は、今後も土地区画整理事業の進展に伴い、住宅等の増加が見込まれるため、下水道への接続及び正しい使い方について啓発を進めていく必要があると考えている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、令和4年度において大規模な工事の完了による取得固定資産の増加により、上昇傾向にあるが、24.44%と類似団体の平均値を下回った。また、② 管渠老朽化率は0%を維持していることから、老朽化の度合いは類似団体等よりも低いことが分かる。

③ 管渠改善率は0%と類似団体の平均値を下回っている。

老朽化の対策としては、布設後の経過年数、施設の重要度及び管路を布設している道路の交通量等を勘案して、早期かつ計画的に、修繕、改築及び更新等を実施していかなくてはならないが、本市では管路内部のカメラ調査を行い、その調査結果に基づき適切に補修を進めているため、当面は引き続きこの取組を継続していく。

全体総括

各指標について、類似団体平均値及び全国平均値を下回るものがあるが、現状においては健全な経営状況を維持している。しかし、今後は累積欠損金を減少させ、経営改善していく必要がある。

支出については、予算内容を見直し、工事内容を精査した上で適切に事業を進めていく。

収入については、新型コロナウイルスによる影響が改善されたことや、人口の増加による使用料収入の増加を見込むことができると、他会計からの繰入金の見直しを行うことで改善を進めていく。

また、令和元年度に策定した下水道事業経営戦略の投資・財政計画に基づき、今後予定している総合地震対策業務への取組及びストックマネジメント計画の策定等に沿った取組を計画的かつ効率的に進め、経営基盤の強化を図っていく方針である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。